

8. 河道特性

8.1 河道の特性

源流から篠山川合流点までの上流部（佐治川）は、遠阪川合流点より上流は単断面の堀込み河道となっており川幅も狭く、河床勾配は約 1/40～1/200 である。しかし、遠阪川合流点より下流は河床勾配が約 1/400～1/600 であり、川幅も 150m 程度あるため、中流部の河道とほぼ同じ様相である。

篠山川は佐治川と同様に比較的広い谷底平野が発達し、篠山川市街地では河床勾配が約 1/1,000 であり、川幅も 100m 程度ある。

篠山川合流点から美囊川合流点までの中流部は、河床勾配が約 1/1,000 で、鬪竜灘に代表されるように岩河床区間が存在する。川幅は 200m 程度であり湾曲部も多数存在する。

古新堰堤から美囊川合流点までの下流部は、河床勾配が約 1/1,000 である。12k0 地点にある加古川大堰より上流部は大堰の湛水区間となっている。川幅は 300m 程度であり、播州平野を貫流しているため左右岸ともに家屋が連担している。

河口から古新堰堤までの感潮域は、河床勾配が約 1/1,000～1/2,000 であり、河口部には瀬戸内側では希少となった干潟が存在する。川幅は 600m 程度である。

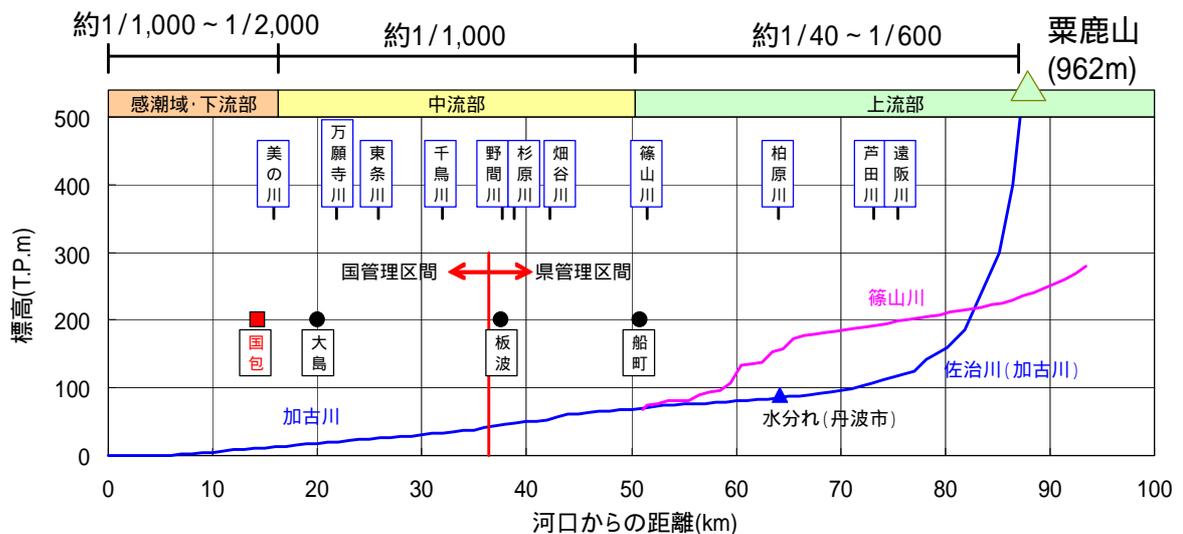


図 - 8.1.1 加古川縦断図

8.2 河道の安定性

(1) 加古川の河床変化（国管理区間）

加古川の河床変化については、12.0k 付近の加古川大堰の建設に伴って周辺河道が大きく改変されている。加古川大堰は昭和 55 年に着工し、平成元年に竣工している。また、加古川大堰の建設に伴って、加古川大堰上下流の河道改修が実施され、河道状況が大きく変化している。

全体としては、河床変動量は小さく、河床は安定している。

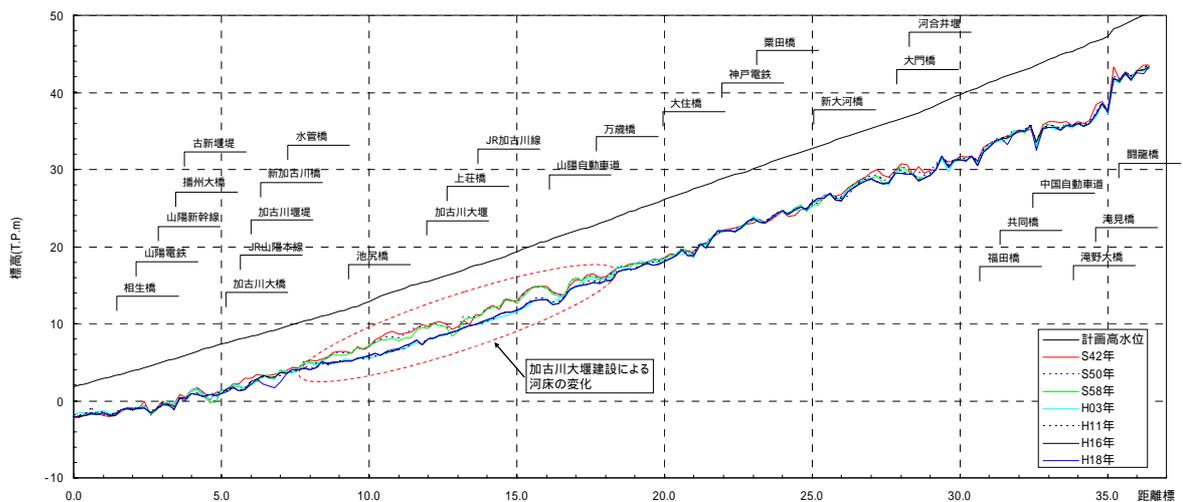


図 - 8.2.1(1) 加古川平均河床高縦断図

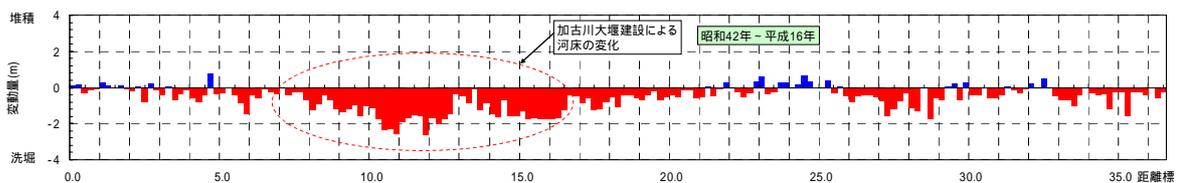


図 - 8.2.1(2) 加古川における河床変動の状況

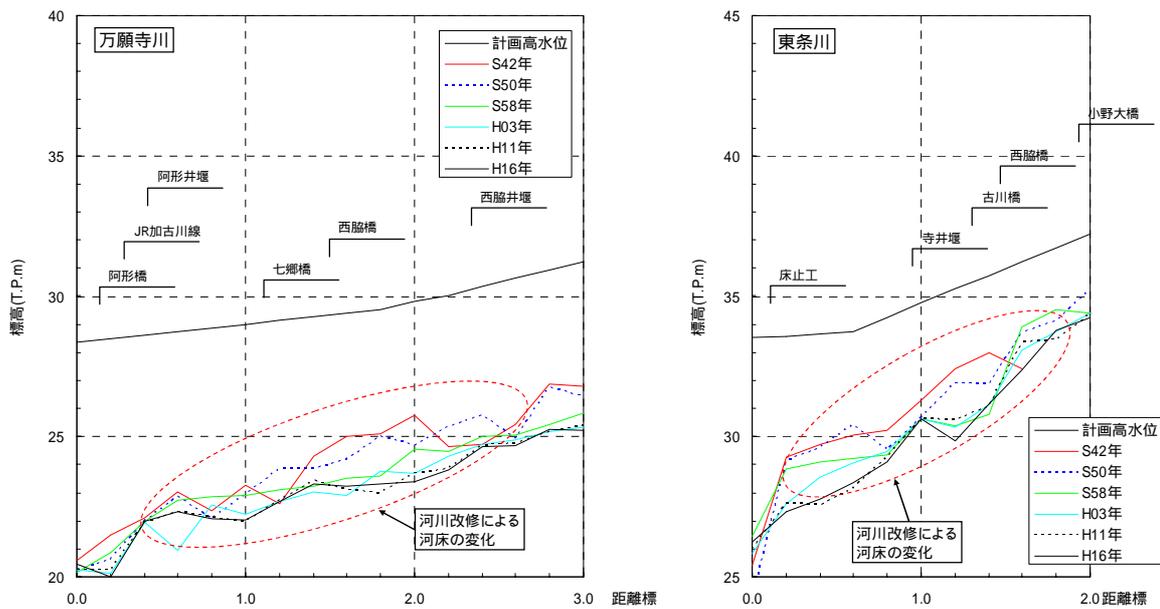


図 - 8.2.1(3) 万願寺川・東条川 最深河床高縦断図

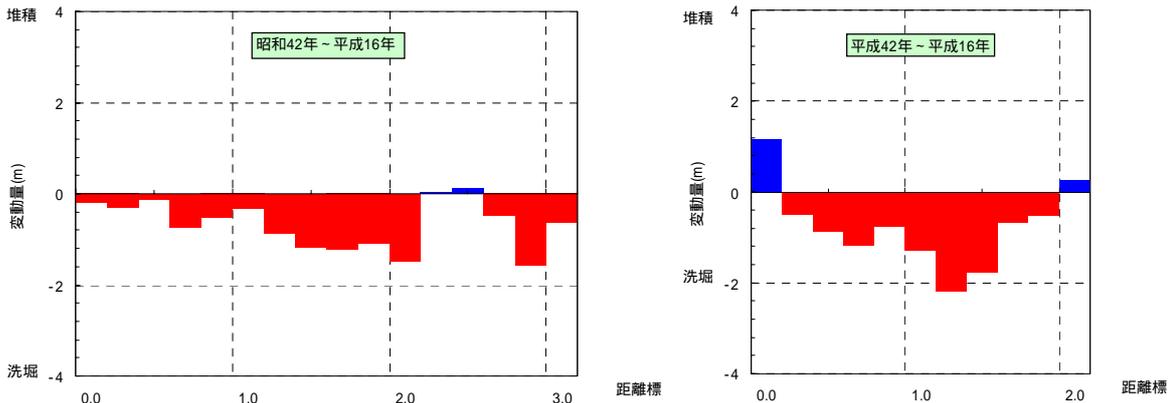


図 - 8.2.3(4) 万願寺川・東条川における河床変動の状況